

# 概要報告

実施期日	8月 3日(木)
部会名	中学校 音楽部会

## 神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

## テーマ

### 『主体的に考え、活動できる、授業づくり』

## 提案概要

箏の音色をいかして「さくらさくら」の前奏部分を創作し、演奏する。1年次に「さくらさくら」を通して箏の基礎的な奏法を学習した。テーマの『主体的に考え、活動できる、授業づくり』に基づき、表現活動や創作活動を行う時に、演奏技能に偏らず、思いや意図をもって創作し、演奏につながるよう指導を行った。

生徒は「2小節の前奏を創作する」「新しい奏法を取り入れる」「思いや意図を持って表現活動を行う」を条件に、創作を行う。その際、生徒を3人のグループに分けてそれぞれ役割分担（奏者、楽譜サポーター、手元サポーター）をして活動することで、教え合いや仲間との対話を通じて発想を広げることができた。また、黒板に授業の流れや拡大した楽譜を貼り見通しをもって授業に取り組み、iPad（教師の手元をリアルタイムで撮影、ロイロノートで前奏の例や画像等の提示、自分の演奏を振り返るために録画等）を積極的に活用することで、より思いや意図をもって創作活動を行うことができた。電子機器で行う音楽活動と本物の楽器に触れて、音素材を味わうことのバランスをとりながら取り組ませた。

評価については、奏法についてではなく創作に重点を置いて行った。

## 質疑応答

とくになし

## 協議の柱及び協議概要

協議の柱『主体的な表現活動の取り組み』

### 協議概要

グループに分かれ、協議の柱に沿って各校の取り組み等もふまえた協議を行い、3つのグループが協議内容の発表を行った。

- ・画像等を見て表現の意図を持たせるためにロイロノートの活用が効果的（ワークシートの共有、書くことに支援が必要な生徒の参加など）
- ・限られた授業時数で活動するための工夫（前年度から継続的な活動、ユニバーサルデザインを意識した教室環境（片づけ方や場所の指示等）や授業環境、グループ内の役割分担の明確化など）を綿密に行うことで、多くの時間楽器の練習ができ、より主体的な活動につながる。
- ・評価の観点がわかりやすく提示されているので、生徒自身がゴールを意識しやすい。
- ・グループ内の役割分担がされており、生徒自身が何をするか明確にわかるので、相手のことを考えて活動することができていた。

## まとめ概要

制限の中、音楽の素晴らしさを伝えることができる授業づくりの工夫がされていた。研究主題である『主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善』の中『深い学び』が鍵となる。深い学びとは、見

方や考え方を自己のイメージや感情、伝統や文化などと関連付けているかどうかだと考える。

今回の授業では、生徒自身が自分のイメージと関連付けて創作できている。また、授業の準備や片付けなどが構造化されており、生徒が迷わず、安心して活動に取り組んでいた。生徒が安心して活動できるようにすることで、教師側も安心して授業ができ、主体的な活動につながっていく。